



# レプトスピラ検査について

検査科 細菌検査 仲間 美香

レプトスピラとは、レプトスピラ科スピロヘータに分類され、高温多湿な環境を好み、哺乳類全般に感染します。湿った土壌に数か月生存可能といわれており、感染動物（ネズミ、マングース、イノシシ）の排泄物中のレプトスピラが河川に流れ出て、それをヒトが経口・経皮的に接触し感染が起きるといわれています。

レプトスピラ症の潜伏期間は3日から14日で症状は悪寒、発熱、倦怠感、結膜充血、筋肉痛で重症になると黄疸、肝・腎機能障害を呈します。人畜共通感染症で感染症法の四類感染症で診断したら、直ちに届け出が必要となります。海外ではタイ、フィリピンなど熱帯・亜熱帯地域で報告されています。日本では沖縄県、特に石垣島、西表島から症例が多く報告されており、迅速な検査報告が有益だと言えます。

従来の検査方法は、血液（1m l）や尿（0.1m l）をコルトフ培地に接種して培養を行い1週間に一度、暗視野顕微鏡で鏡検しますので、検査報告に数週間要しました。培養により検出された菌体はさらに精査をおこない血清型の判別が可能となります。近年、行政検査においてPCR法での結果報告が

数日と短縮されました。

昨年よりPCR法は沖縄県衛生環境研究所の協力で院内導入を行い、院内機器（BDMAX）による検査を構築しました。検査実績は18件実施し、陽性は5件（患者4名）でした。

コルトフ培地での培養・鏡検検査も院内で復活することができました。昨年度は52件実施し、陽性は15件（患者15名）検出できました。

沖縄本島内の細菌検査室でもコルトフ培地の鏡検をする機会が減少している為、若手技師に技術指導を行い継承が課題となっております。

最後に川でのレジャーの際は、足など傷がある場合には控え、飲水は避けてください。



やいまむん

沖縄県立八重山病院広報誌(令和8年6月発行)

発行 / 沖縄県立八重山病院  
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院 広報委員会

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1  
TEL:0980-87-5557(代表) FAX:0980-87-5835



# やいまむん

Vol.19  
2026.6



表紙写真：令和八年度辞令交付式

- 医局長挨拶と肥満症治療外来のご紹介
- 看護部の紹介
- 八重山病院への赴任にあたって
- レプトスピラ検査について
- 診療所だより



## カルテに書ききれないこと

波照間診療所 医師 宮島 一実

昨年に引き続き、波照間診療所でお世話になっております宮島です。島医者としての1年はあっという間に過ぎ、気づけば2年目に突入しておりました。この間、さまざまな場面で島の皆さまに支えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

1年目は何もわからず、言われるがままに参加していた島の行事も、2回目となると少し勝手がわかるようになり、昨年より一層意欲的に加わることができていると自負しております。具体的な行事や出来事についてお話ししようと思ったのですが、振り返れば思い出はあふれるほどに積み重なり、一つひとつに込み上げる想いも大きく、どれも甲乙つけがたいものばかりで、とてもこの欄には収まりそうにありません。またの機会に譲るといたします。

今回は、島医者をしていて気づかされたことをひとつご紹介します。それは、患者さんとその背景に対する解釈の深まりです。医療現場では「〇歳男性、既往歴〇〇、ADLは杖歩行、排泄自立……」といったテンプレートで

患者さんの情報を共有し、その項目を埋めることで、なんとなくその方のことをわかったような気になりがちです。しかし島医者になってみると、患者さんは同じ島民であり、ご近所さんでもあり、さまざまなことが見えてきます。毎日通う畑から見える景色、家の佇まい、この土地で誰と関わりながら長年どんな役割を担ってこられたのか。とても定型の項目では表しきれません。そしてそれらの情報こそ、その方の人生観や想いを推し量るうえで欠かせない要素だったのだと気づかされました。

吹き抜ける潮風、ふいに見上げた満天の星空、道で交わす何気ない挨拶。波照間の自然と暮らしに育てられながら、今日もまた診療所の扉を開けます。



今年もやります！



## 「八重山病院お仕事体験ツアー」

日時：7月25日(土)

詳細については、後日ホームページにてお知らせいたします。

# 医局長挨拶と 肥満症治療外来のご紹介

内科 医師 村井 俊介



この度、医局長に指名いただきました、内科の村井俊介です。皆様へのご挨拶の代わりに私の自己紹介と肥満症治療外来の設立経緯を紹介させていただきます。

まず、私の個人的なバックグラウンドを少しお話しさせてください。私は岐阜県の、母校が廃校になるような本当のど田舎で育ちました。両親は兼業農家で大学進学という選択肢はありませんでしたが、教育に対しては大きな理解があり、遠距離の通学（最寄りの駅まで車で20分！）や塾通いにも最大限の援助をしてもらいました。医師になり20年が過ぎましたが今でも家族には感謝をしています。私が医師として実績を出すことが家族への恩返しになると思っており、それが私の仕事に対する最大のモチベーションとなっています。

ただ、そんな敬愛する家族なのですが、私以外の家族はみんな肥満に悩んでいます。父も、母も、妹も、姪っ子も。私は高校から愛知へ、大学以降は名古屋で過ごしてきましたが、帰省の度に体格が大きくなる家族には、時にやせる必要性を説き、時に口ゲンカもしましたが全く変わらず、むしろ体格は大きくなるばかりでした。遺伝子のルーツは同じなのに説得できないのは私の医師としての技量が低いからだと思ってしまうこともありました。

ここ数年の肥満症に対する医学的な発展から、「肥満は、本人の意志の弱さだけのせいじゃない」ということが広く認知されるようになりました。私はたまたま、若いうちに都会に出て、歩く機会が多く、食事の選択肢も多い環境に身を置きました。でも、地方では車がなければどこにも行けませんし、高カロリーな食事が数少ない娯楽となっている一

面もあります。つまり、育った「場所」や「環境」が、本人の努力とは関係なく体型を決めてしまう側面が間違いなくあるということです。

そんな個人的な背景があるからこそ、同じへき地であるこの八重山の皆さんの力になりたいと思っています。「環境」のせいで肥満症となり、健康を損なっている。それなのに、なおかつ他人から「だらしない」と揶揄されるような、今の状況を変えたいのです。

幸いなことに、田守循環器部長の熱心なバックアップもあり、当院は日本の離島と呼ばれる地域で唯一、最新の肥満症治療薬を使える施設として認められ、実際に処方も始まっています。外来看護師、栄養士を始め、みなさんに業務負担をお願いしていますが、本外来に積極的に協力いただき本当に感謝しております。

患者さんに「八重山病院に来てよかった」と信頼されるには、常に新しいこと、より良いことにチャレンジすることが不可欠だと考えています。そのためには医師のみならず全職員の協力が必要となります。私が医局長として医師とスタッフとの橋渡しとなり、それによりこの地域の一層の健康に貢献できるよう、心を尽くしたいと思えます。何かありましたら遠慮なくご相談ください。そして皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



## 看護部の紹介

看護部長 上江州 美智子

やいまむんをお読みの皆さんこんにちは  
八重山病院看護部配属2年目の上江洲美智子です。

昨年3回目の執筆です  
さて、令和8年度は看護師長2名と新採用者48名を迎え新年度がスタートしました。VUCAの時代のなかで、当院の理念「地域と共に八重山の医療を守ります」に向けて、様々な課題に取り組んでまいります。

今年度は八重山医療圏における中核病院として、急性期医療を維持しながら、地域のニーズの高い包括医療も担う必要があり、前年度から運用を開始しています地域包括ケア病棟の施設基準届け出を行います。

さらに、地域の医療関係者と連携をさらに強化するため、地域連携・外来看護の充実に取り組んでいきます。  
地域の皆様のご支援・ご協力をお願いします。

4月より外来師長に赴任致しました多和田聖子です。

石垣島は初めてですが、綺麗な海と山と空気に毎日癒されています。

私は、今まで中部病院、南部医療センター、北部病院で多くの患者さんと出会い、学ばせていただきました。

八重山病院でこれまでの経験を活かしながら、地域の皆様や医療スタッフと協力して、皆様から愛される外来を作っていきたいと考えております。

今後とも皆様のご助言、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

今年度からの  
新しい師長さんを  
紹介します。



令和8年度

<看護部理念>

私たちは患者様本位の良質で安全な看護を提供します

<目標>

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 個々のキャリアを支援し、働きがいのある職場づくり
3. 看護の専門性を発揮し、チーム医療を推進する
4. 八重山医療圏における中核病院として、地域・社会に貢献する

石垣生まれ石垣育ちの宮城千秋と申します。

今年度より地域連携センター（通称：地連）の新人師長として勤務しております。

地連では、院内外の連携、入退院支援、がん相談、緩和ケアなどを担っています。

医療機関だけではなく、学校や地域の皆さまとの繋がりも大切にしながら、安心して相談できる窓口を目指しています。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 八重山病院への赴任にあたって

事務部長 稲嶺 秀樹



令和8年4月1日付で沖縄県立南部医療センター・こども医療センターより赴任いたしました事務部長の稲嶺（いなみね）と申します

これまで、中部病院、宮古病院、病院事業局、南部医療センター・こども医療センターと病院職員として勤務してまいりましたが、今回初めて石垣島にて勤務することとなります。

エメラルドグリーン的大海と豊かな自然、そして温かい地域コミュニティに囲まれた八重山での生活を非常に楽しみに思うと同時に、限られた医療資源の中で、事務部長として当院の理念である「地域と共に、八重山の医療を守ります。」を全うする責務の重さをひしひしと感じております。

院長、副院長、医療部長、看護部長をはじめとした職員の皆様と一致団結し、医療従事者が働きやすい環境を整備することで、八重山在住の皆様や来島される方々が安心できる地域医療の維持、発展に寄与できるよう、誠心誠意努めてまいります。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

